

「高校生SDGsサミットin2023やつしろ」で農業の現状などの課題提起

11月5日に八代市で開催された「高校生SDGsサミット」の際に、熊本県拠点が学生向けに作成したリーフレットを活用して、日本農業の現状や食品ロスなどについて問題提起。

○ 施策分類

みどりの食料システム戦略、食育

○ きっかけ・背景、課題の把握

八代市で開催される「高校生SDGsサミットin2023やつしろ」について、九州環境事務所から協力依頼があり、当拠点でも若い世代へのみどりの食料システム戦略の理解醸成を図る取り組みを進めていたことから、参加することとなった。

○ 取組の内容

参加者は八代地区、福岡県の高校生及び長崎県の中学生36名。助言者、専門家など33名。パネラーや助言者として、国土交通省八代河川国道事務所、八代市等も参加。

パネルディスカッションでの提起を受け、学生たちはグループに分かれて、課題や対応策などについてワークショップに取り組んだ。課題提起では、飢餓をゼロにするために、気候変動への具体的な対策、農業の現状などについて説明し、ワークショップでは、これらについて何ができるのかなどについて話し合い、グループごとに発表を行った。

○ 効果・成果、今後の方向性

農業や食品などの現状についての知識がほとんど無かった学生に、自給率の現状や食品ロスなどを家庭生活の中で考えてもらうきっかけができたことは成果であった。

(来年は長崎県で開催予定。その後九州内に広める予定。)



パネルディスカッションの様子
「各パネラーから課題提起」



農業や環境など省ごとのグループに分かれてワークショップ

組織の説明

主催

- ◆次世代のために頑張ろう会（八代市）
- ◆team長崎シー・クリーン（長崎市）

（参加者の概要）

- ・次世代のために頑張ろう会の1組織として「エコ・ユースやつしろ」があり、このメンバーが八代市内の高校生となっている。
- ・team長崎シー・クリーンは、長崎市の野母崎地区を中心に海岸の清掃等に取り組んでいる団体の活動に参加している中学生。
- ・福岡から参加の高校生は、海岸の清掃活動や藻場再生等に取り組んでいる高校生。